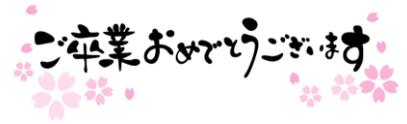


卒業によせて 高等部3年生保護者



13年前、一目惚れで埼大附属の受験を決めました。そして私のその一目惚れの勘は外れていなかったと12年経った今、改めて思います。

小1の運動会の目標は名前を呼ばれて返事をするごとでした。そんな彼が、高3の運動会では応援団長をやらせていただきました。

小1の登下校の目標は、私と手を離して歩けるようになることでした。高3の今は、日進駅から1人で登下校できるようになりました。

入学当初、彼の方から手を振り払われることがあったとしても、私から手を離すことがあるなんて想像もつきませんでした。嫌がる彼を引きずって歩くか、飛び出さないように捕まえて歩くかの人生なのだと思っていました。それが、歩ける距離が電柱一本ずつ進み、駅から歩けるようになりました。

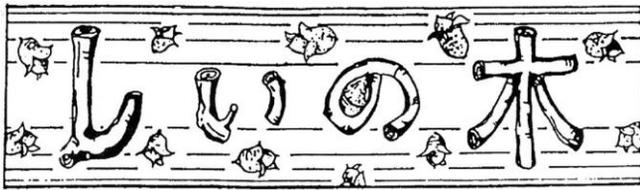
校庭の角の道で初めて私から手を離した日。まっすぐ校舎へ向かうランドセル姿の彼の背中を、不安と喜びでなんの涙なのか？わからないまま泣きながら見送ったのもよい思い出です。

12年間、もちろん成長だけではなく、彼なりの思春期、反抗期など悩みもたくさんありました。その度に、先生方や周りのお母様方に支えていただき乗り越えられたと思っております。

体育館、校舎の建て替えも経験しました。イレギュラーなことが続き、彼にとっては不安だったと思いますが、それもよい訓練になったと思います。プレハブ校舎で過ごしたこともよい思い出です。

こうやって埼大附属で息子と過ごした12年間は私の人生にとってもかけがえのない日々となりました。

4月より新しい環境で過ごすことになりますが、焦らず、また登下校の練習のように一歩ずつ歩んで行きたいと思っております。



新年を迎えて

しいの木林を守る会部長

今年は午年です。干支で言いますと7番目の年になります。この干支の順番は「十二支の競争」という話に由来します。釈迦様が動物たちに「新年の挨拶に来た順に、一年の代表とする」と言い、動物たちが一番を競い合ったものです。速い馬がなぜ7番目なのか？といいますが、道中にある川の流れが、苦手とする炎と見えて、二の足を踏んだといわれております。

丙午（ひのえうま）とは十二支に加えて、十干を組み合わせた干支です。丙は陰陽五行思想で火を表します。ともあり、火の苦手な馬と、火が支え合うことで、本来の馬の力を発揮できる良い年と言われます。

昨年のしいの木林を守る会を振り返ると、校内整備活動から、七夕まつり、秋レクと様々な活動を収めることができました。これも先生方・父母の皆様のご協力あつての事だと思っております。また、昨年行われた関附連PTA大会では、本校の父親が中心となる本部会の活動に対して、好意的なお声を多くいただくことができました。

冒頭の丙午に例えられますが、生徒達・父母方も一人一人だと無理なことでも、繋がり・支え合うことで、成し遂げられる事が多くあります。より一層、今年はそういった一年になるよう願っております。

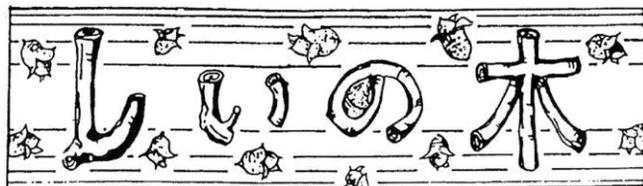


校内整備活動



秋の親子レクリエーション





つながり、支えあう しいの木NET・親の会 しいの木NET部長

今年度のしいの木NETは、しいの木林を守る会と共に関附連茨城大会で発表する機会がありました。

柳澤副校長原案の「つながり、支えあうPTA活動」を基に発表資料を作成していて、改めてこの活動の素晴らしさに気付くことができました。

実際に発表した概要を次にご紹介します。

本校は「鉄道のまち大宮」から川越線で一駅の日進駅を最寄りとし、現在、徒歩・バス通学のほか、8つの路線から通学する生徒がいます。

さまざまな市町村から通学していて地域の情報が得にくいことがあるため、しいの木NETでは地域別に分かれて地域の施設などを見学します。学部を越えて縦割りでの活動になるので、先輩の保護者から見学時のポイントなど、色々な話を聞くことができます。高等部になると個人で施設を見学することになるので、高等部になった今ではこの活動の良さを実感しています。

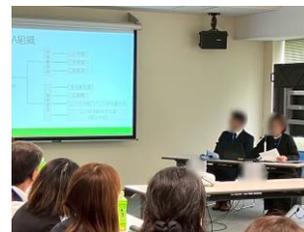
しいの木親の会では年3回の行事があり、卒業生の保護者から卒業後の様子を聞くことができるので大変参考になります。卒業後はきっと親子で埼大口スになっていると思うので、卒業後もつながれるこの会は大変ありがたい活動だと思います。これからもしいの木NETと親の会を通してつながり、支えあっていけたらと思います。



しいの木NET交流会



ブロック別事業所見学



関附連茨城大会